

職場からの運動とともに地域の取り組みを支えよう

国労ちば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発責 加藤 晃一
編集 高橋 弘幸
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5963
FAX 043(238)5967

賃上げで
豊かな生活
取り戻そう！

組織再編に向けた統合大会

木更津統合分会大会開催

11月19日、木更津市中央公民館において、国労千葉地本初の地域分会結成となる木更津統合分会大会が開催された。

木村執行委員の司会進行で始まり、大会議長に木更津分会の加藤さんが選出され、議事が進められた。

石橋執行委員長から「今大会は結成大会とすべきだったが、様々な労力を省き既存の分会へ編入する形とした。組織再編の提起を受け議論を重ねて今統合大会に至った。木更津地区における地域とのかかわりである『かずさ住民の足を守る会』『オスプレイ来るな！』『小櫃川の水を守る会』『君津・木更津地区労センター』など地域の取り組みを、今後国労として支えるためにも地域分会発足の至った」とあいさつ。



国労千葉地本から北嶋書記長・松田特別執行委員が参加し、北嶋書記長より情勢を含めたあいさつと、組織再編を先行的に実践された木更津分会をはじめ旧木更津運輸区分会・旧木更津保線区分会・旧館山保線区分会へお礼を述べた。

その後、駒書記長から木更津統合分会規約・2022年度運動方針案を、木村財政担当から2022年度予算案をそれぞれ提案。初めて顔を合わせる組合員もいることから、全員の自己紹介を行い質疑・討論に入った。系統の違う4つの分会から集まったため、組合員それぞれの職場実態と職場における問題点を出し合いながら議論が進められた。改めて地域分会としての有意義な点、とりわけ国労組合員として同じ地域で働く仲間の実態について共通認識を深め合うことのできた大会となった。

石橋執行委員長をはじめとした新役員体制と1年間の運動方針・予算を確立し大会は成功裏に終了した。

成田分会大会開催

11月15日、成田分会は成田勤労会館に於いて、今年度の分会定期大会を開催した。

元地本副執行委員長の安田さんが議事を進行した。

議事・議題では、経過や延期承認、2年分の決算報告などがスムーズに行われた。予算案や運動方針案の提起をうけ、参加者全員から各職場の報告がされた。



★人が足りず9徹や10徹もやらざるを得ない。一方、非常に要員に余裕がある職場もある。★日動化となってもマルスは残り、色々な乗車券類の問い合わせが来てストレスになっている。★パートになり安い時給単価で、エルダーと同じく働いて賃金に差がある。バカバカしくてやっていられない。等々の報告がされた。組合員の発言により豊富化された運動方針案と予算案が可決され、新役員体制を確立した。

新役員体制
執行委員長 鈴木雅美
執行副委員長 泉水正義
書記長 安田正浩

新役員体制

執行委員長 石橋康弘
執行副委員長 加藤 悟

書記長 市原正人
駒 清美

また2023年2月11日、館山地区にて分会旗開き交流会を開催することも確認。初めての顔合わせという事で、大会終了後には参加者全員で親睦を深め合った。

合図燈

若い社員が退職する話を聞くと、気持ちが沈む。希望を抱いて入社したのに悩んだ末この会社で自分の人生を託せないと決断しての退職だろう。JRへ戻りたがらない出向社員も珍しくないそうだ。JRはいつからこんな魅力のない会社になってしまったか◆年末手当支給額が提示されたが納得できる額ではない。出るだけマシと思おう若手社員もいるが決してそうではない。夏季・年末手当は労働者にとって毎月の給与と共に欠くことのできないものであり、労働者の生活を支えるのは企業としての責任でもある◆日本を代表する企業としてJRは率先して経済界を引っ張るべきだが、利用者へ不便を押し付けて赤字となっても内部留保として貯め込み、還元しない。そんな会社に見切りをつけて若い社員が辞めていく企業の将来はどうなるのだろうか。時代が変わり技術が進んでもそれを支えるのは「人」であるはずだ。社員を「人」として育てようとしないうちに将来は無い(弘)

交通運輸で働く労働者の「生命と権利」を守ろう

千葉県交運労協定期総会開催

11月18日、千葉県交通運輸産業労働組合協議会（千葉県交運労協）第27回定期総会が開催された。

交運労協は主に「国民の生活と経済を支えている交通運輸産業の安全性の確保や、環境にやさしい良質なサービス向上」に向け「バス部会」「ハイヤー・タクシー部会」「物流部会」そして国労が所属する「鉄軌道部会」に分かれ、それぞれの部会で議論を深め政策要求を議論し、毎年

中央では国土交通省に、千葉では関東運輸局に各部会の政策要求を申し入れ、諸問題解決に向け取り組むことを目的とした協議会である。

また「春闘」の取り組みとして、加盟産別（単組）の要求や諸問題を持ち寄り、学習を通して交通運輸産業をより魅力ある産業とするため、交通運輸労働者の賃金・労働条件の向上を目的とした活動も行っている。

報共有し職場から闘いを構築するための学習を深めている。

この間、国労千葉地本は、所属する鉄軌道部会を通して、ワンマン運転の撤回や駅の無人化問題、駅のバリアフリー化やホームドア設置の推進などの要求を集約し、公的支援も含め関東運輸局に申し入れを行い、その改善や撤回を鉄道会社に促すよう求めている。

き課題などを議論し滞りなく終了した。国労千葉地本からは加藤委員長が引継ぎ幹事に就いた。また、永きに渡り会計監査としてその活動を担ってきた宮負特別執行委員が退任し、新たに北村執行委員がその任に就くことになった。国労千葉地本はこれからも、千葉県内の交通運輸産業に働く仲間と連帯し、交通運輸産業に働く労働者の「生命と権利」を守る闘いを強化していく事をあらためて決意した総会となった。

社友会と支社とのやり取り

先日、駅休憩室にある社友会の掲示板に掲示されていたものの中で気になるものがあった。普段はあまり読むこともないのだが、年末手当のことが記載されていたので読んでみたところ、まるで団体交渉のようなやり取りが記載されていた。

社友会は、詳しい月数を会社に提示してはならないもの「夏季手当を超える回答を期待する」と会社に要求していた。支社はこれを「意見」として本社に伝えると回答しており、意見交換会と銘打った団体交渉ではないか。支社の回答の末尾には「社友会から具体的な提言をお願いする」とあり、これのどこが意見交換会であろうか。会社は社友会への認識をあらため労働組合との交渉を重視し、社友会は労働組合のような活動をやめ、存在意義を再検討すべきである。団体交渉を行使できるのは労働法に守られた労働組合だけなのだから・・・（組合員からの投稿）

当選御礼

11月20日、いすみ市と松戸市の市議会議員選挙の投票が行われ、国労千葉地本が推薦した、4名の立候補者全員がめでたく当選した。

立候補者の日頃からの活動とともに、組合員の支援・協力によるものであり、多くの組合員にあらためて感謝申し上げる。今回の市議選を皮切りに、来年には統一地方選挙がおこなわれる。労働者・市民が元気に暮らせる自治体へ、私たちの声を代弁する候補者の勝利を目指そう。

【いすみ市】

元吉 栄一 議員

【松戸市】

二階堂 剛 議員

工藤 すす子 議員

増田 かおる 議員

また低額回答

今年の年末手当もまた、低額の回答が出された。会社は「第2四半期は黒字になったが、営業利益は当初計画を下回る結果」というが、コロナ禍において減収は目に見えているのに、それを無視した目標自体が間違っていないのか？第2四半期で黒字になった分はすべて内部留保になるのか？ 私たちがコロナの不安と闘いながら働き得た利益である。減収と物価高騰に苦しむ今、社員に還元すべきではないのか。

【2022年度年末手当の回答状況】

2022年11月29日 国鉄労働組合

会社名	本年度実績	前年度実績	支払日	前年比	回答日	特記事項
北海道	1.70カ月	1.67カ月	12月14日	0.03カ月増	11月25日	
東日本	2.40カ月 +2万円	2.00カ月	12月5日	0.40カ月増	11月11日	
東海	2.70カ月	2.20カ月	12月9日	0.50カ月増	11月10日	
西日本	1.80カ月 +3万円	1.25カ月 +5万円	12月9日	0.55カ月増	11月11日	
四国	1.43カ月	1.21カ月	12月7日	0.22カ月増	11月24日	ライフプラン支援金 含めて1.83カ月
九州	1.90カ月 +2万円	1.32カ月	12月13日	0.58カ月増	11月29日	
貨物	1.62カ月	1.67カ月	12月9日	0.05カ月減	11月18日	
ソフトバンク	2.50カ月	2.50カ月	12月15日	同月数	11月18日	

拡大分会長会議

日時 2023年1月14時13時
場所 千葉県教育会館604号室